



# ヘモクリーン簡易使用説明書

ヘモクリーンは、血液浄化(主に血液透析)にかかわる装置や配管に対して洗浄・除菌をおこなうための製品です。(一部ご使用いただけないものもあります)\*<sup>1</sup>

\* 1 別紙「マテリアル適合一覧」参照

## 事前準備

- CDDS(多人数用透析液供給装置)の場合、ヘモクリーン原液を用意されている薬液用専用タンクに移します。

- 個人用透析装置の場合は、ヘモクリーン容器をそのままご使用ください。

◇ 最終希釈倍率が、推奨もしくは予定希釈倍率にならない場合は、事前にRO水にてヘモクリーンの原液を希釈する必要がある場合もあります。

- ① 透析終了後、任意(設定)時間\*<sup>2</sup>の後水洗を行います。
- ② 消毒工程で、ヘモクリーンを推奨(もしくは任意)希釈倍率になるよう調整し装置内へ送液します。
- ③ 末端(装置)での希釈液濃度が推奨濃度になるまで送液し、そのまま一定時間シングルパスさせます。推奨濃度に達成する時間は透析液液置換に要する時間を参考にしますが、初回および定期的にpH計によるpH値でご確認ください。  
[参考:原液の50倍希釈でpHは約1.9です。希釈使用するRO水のpHにより変動します。]
- ④ 一定時間送液が経過したらそのまま次回透析\*<sup>3</sup>準備まで封入します。【一晩封入推奨】  
[封入する事により、置換を行った場合のRO水内水棲菌の流入を防ぎます。]
- ⑤ 透析開始前に、封入されたヘモクリーン液を設定された水洗\*<sup>2</sup>工程により洗い流します。  
[最小水洗時間は、透析液の完全液置換時間を参考にしますが、初回は過酸化水素残留テストストリップ(過酸化水素の残留)等で確認をお願いします。]

\* 2 『透析液水質管理&オンラインHDF』編著:金 成泰 参照

\* 3 ICU等での長期間ご使用にならない装置の場合を除く

## 導入時の注意事項

- これまでのご使用薬剤が塩素系(アルカリ)であった場合、まれにOリングやシリコンチューブに膨潤や白濁が見られることがあります。

ケイアールディジャパン株式会社

〒134-0083東京都江戸川区中葛西3丁目2番5号村岡ビル2F

TEL.03-5659-2024 FAX.03-5659-2025

# ヘモクリーン使用上の注意

## (用法上の注意)

1. ヘモクリーンを使用する際は、手袋、ゴーグルを着用すること。
2. 手指や皮膚、顔面(目)等に直接ヘモクリーンが触れないこと。
  - \* 万が一、直接触れた場合はすぐに流水にて十分洗い流すこと。
  - \* 万が一直接接触により皮膚等に炎症が起こった場合は、すみやかに皮膚科または専門医師に受診すること。
3. 他の用途に使用しないこと。
4. 他の洗浄剤や、消毒剤と混合しないこと。  
特に、次亜塩素酸ナトリウム等の塩素系製剤と混合すると塩素ガスを発生するので十分に注意すること。
5. 除菌効果、洗浄効果を保つため、元に戻したり継ぎ足したりしないこと。

## (取り扱い上の注意)

1. 直接日光が当たらないようにすること。
2. 使用中は、換気に気をつけること。
3. 期限内での使用のこと。[外箱ラベルに記載]

## (保管上の注意)

1. 室温にて保管すること。【推奨温度 1℃～30℃】
2. 直接日光および高温を避け、冷暗所で保管すること。
3. 火気に近づけないこと。
4. 横倒ししないこと。
5. 子供の手が届かない場所に保管すること。

★ 別途薬液用専用タンク等へ移しかえられる際は、ヘモクリーン原液の飛散にご注意ください。

＜ 飛散を少なくするために ＞

- ①ヘモクリーン容器のハンドル横にある突起部を、先の尖ったもの(例えばボールペンのペン先等)で刺し空気穴を確保します。
- ②ハンドルを左手で握り、ラベル面を下にして右手で容器下部を支え専用タンク等に注いでください。

注意: 空気穴を確保された容器による保管はおやめください。



\* この製品は劇薬、劇物ではありません。

ケイアールディジャパン株式会社

〒134-0083東京都江戸川区中葛西3丁目2番5号村岡ビル2F  
TEL.03-5659-2024 FAX.03-5659-2025